

## 愛情、急速に冷えた 「産後クライシス」女性の半数経験

阿部彩芳 2017年12月27日18時40分

f シェア

280

Twitter ツイート

list

B ブックマーク

22

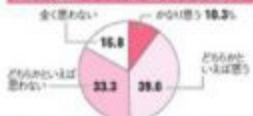
メール

印刷

調査に回答した母親の約半数が「産後クライシス」を体験

岡山大学保健学専攻の調査による

自分も「産後クライシス」に当てはまると思うが



もっと産後クライシスに当てはまるのは何らかの原因があるから



調査に回答した母親の約半数が「産後クライシス」を体験

出産を経験した女性の約半数が、夫婦の愛情が急速に冷え込む「産後クライシス」に陥ったとの調査結果を、岡山大学のグループがまとめた。始まった時期は出産後3カ月以内が8割近くを占めた。

出産をきっかけに夫婦が不仲になることがあり、NHKの情報番組が2012年に「産後クライシス」と名付けて注目された。ただ学術的な調査はほとんどなかった。

岡山大学大学院保健学研究科の中塚幹也教授らは、15年に岡山県内の保育園や子育て支援拠点の計11施設を利用する母親684人に質問用紙を配布。回答があった353人を分析した。

回答者は平均33.7歳、結婚した年齢は平均28.2歳。産後クライシス（出産後2年以内に夫婦の愛情が急速に冷え込む状況）について「かなり当てはまる」は10.3%、「どちらかといえば当てはまる」は39.6%で計49.9%。このどちらかに当てはまる女性の約6割は回答時点でも続いていると答えた。

産後クライシスの要因を、夫との関係性に関する項目（夫への嫌悪感▽セックスレスになった▽夫に父親の自覚がないと思うなど）と、症状に関する項目（疲れやすい▽マイライラする▽寝不足▽性欲がなくなったなど）に区別。それぞれ0～3点で自己評価してもらい、夫の育児や家事の行動に対する評価と比べた結果、夫との関係性の評価が悪い人は夫の行動に対する評価も低かった。一方、症状に関する項目の評価は、夫の行動の評価と関係がみられなかった。

産後クライシスになった場合、…